

2011年10月1日

(社)日本労働安全衛生コンサルタント会

(社)日本労働安全衛生コンサルタント会

支部ニュース

新潟支部

発行人 支部長 興 梶 建 郎

〒950-0053 新潟市東区宝町 3-1 宝ハイツ 605
鈴弥労働安全衛生コンサルタント事務所内

TEL/FAX 025-270-4440

E-mail: dn7y-szk@asahi-net.or.jp

(第 18 号)

健康安全課長に就任して



新潟労働基準部

健康安全課長 渋谷 昇

(社)日本労働安全衛生コンサルタント会新潟支部の会員の皆様方には、日頃より労働災害防止や労働者の健康確保対策等当課の施策の推進にご理解ご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

ところで、本年4月に今までの安全衛生課から健康安全課へと名称が変更されましたが、職務内容の範囲そのものに変更があったわけではございません。同じ範囲の中のウェイトのかけ方が従来に比べより健康の保持増進を重視したものに変わることなのでしよう。名称の変更と時期を同じくするように従業員の受動喫煙防止対策とメンタルヘルス対策の強化を内容とする安全衛生法の改正が行われる予定でした。

利用してメンタルヘルスに関するスクリーニングを実施するとともにその結果、所見が認められた方が面接指導を希望される場合には医師等による面接指導の実施を事業主に義務づける、またこの面接指導を円滑に行うための受け皿づくりをする、メンタルヘルスについての教育を行うなどです。

ところが、3月11日に東日本大震災が発生してからは、このような予定されていた面での健康管理対策ではなく、原子力発電所からの放射線を直接、間接に浴びる作業者の健康管理対策がメインになってしまいました。放射性物質の管理、取り扱いに関する電離放射線障害防止規則という規則が適用される場面は私の認識からすれば、今まではごく限られたものだったはずですが、いつの間にかあちらで

もこちらでも有害な程度に達する放射線量が測定結果として示されるようになり、そこで作業する人の健康管理が問題となってきたのです。

今回規則を見ると単位として「ベクレル」、「シーベルト」、「グレイ」というものが記載されていますが、昔、若い頃に勉強した電離放射線障害防止規則にはこのような単位はありませんでした。「レントゲン」、「ラド」、「レム」、「キュリー」というような単位だったと思います。この規則はあまり使うことが無かったので、単位がいつ、どのようにな理由で今のように変わったのか、換算方法はどうするのか、いずれもよく分かりませんでしたが、今は否応なくこの新しい単位と向き合わなければなりません。

幸いというか不幸というか、毎日のようにテレビで新しい単位に基づいた解説が繰り返されていますので、門前の小僧習わぬ経を讀むではありませんが、最近ようやくこの新しい単位に違和感が無くなりました。それと分かりにくかったのが内部被

爆と外部被爆の区別です。内部被爆というのは放射性物質を体内に取り込むことで、外部被爆は放射線を浴びることで、外部被爆が一過性のものであるのに対して内部被爆は体内に物質がある限りその物質から出る放射線を浴び続けるという違いが最初はよく分かりませんでした。同じ量の被爆なのに両者で何が違うの、マスクが何で被爆防止に有効なのということは、放射性物質があくまで物質(目に見えないほど小さくとも花粉のように形のあるもの)ということを引きちんと理解しておらず、放射線と放射性物質の違いを正しく理解していなかったための混乱でした。

このような悪戦苦闘の環境から抜け出し、本来の健康管理対策にとりかかれる日が一刻も早く訪れることを心待ちにしております。

コンサルタント会会員の皆様にはこれからも当行政の推進にご理解とご協力をお願い申し上げます。おわりに、皆様方の益々のご発展、ご健勝を祈念申し上げます。

本当の原因はどこに

労働安全コンサルタント

山口 勝彦

3月11日、単身赴任先である名古屋方面を家族と旅行中でした。車を運転していたので会社から安否確認のメールが届くまで地震発生を知りませんでした。まさかあのようなことになっているとは・・・。

宿泊先の部屋に入りテレビを付けた時、目に飛び込んできたのは住宅地を押し流される船の映像でした。その映像は私の予想や理解の範疇を超え、現実として受け入れられず、何かの間違いであってほしいというのが正直な気持ちでした。

その後の福島第一原発の

事故・・・

汚染水処理施設稼働直後は、福島第一原発の状況がニュースにならない日はありませんでしたが、ふと気づくと最近には放射線量、農作物等の汚染に報道の中心が移り、第一原発の現状がどうなのかという報道を目にすることがほとんど無くなったような気がするのは私だけでしょ

うか。

さて、今回の原発の事故は、津波による電源喪失により原子炉への冷却水供給が止まったことが直接の原因ですが、事故、災害が発生したとき最も重要なことは、直接原因を生じさせた本当の原因（間接原因）が何かを突き止めることにあります。

現在ゼネコンの安全衛生管理部門に勤務しており、ひとたび労働災害が発生すると、本当の原因はどこにあるのかをどう追求めます。その手法の一つに「なぜ、なぜ手法」というのがあります。原発の事故を例に取ると、「電源が喪失されたのはなぜ？津波に非常用発電機の燃料が流されたから」「燃料が流されたのはなぜ？燃料タンクが津波の高さより低いところにあったから」「津波の高さより低いところに燃料タンクがあったのはなぜ？・・・から」と、なぜなぜを繰り返して間接原因（本当の原因）を突き詰めていくものです。（通常の災害では4、5回で切りが付ききます。4、5回繰り返すのもかなり大変ですが、原発の場合はそれほど単純ではなく、もっと深いところまで検証しないとならないのでし

ようね）

この手法は実際に起きた災害だけでなく、リスクアセスメント、危険源有害要因の特定を行う上でも有効です。原因がどこにあるのかはつきりしなければ原因を取り除くための対策も立てようがありません。目の前の事象にとらわれることなく、本質を突き詰めていく姿勢が我々コンサルタントにとっても大事なことだと思えます。また、リスクマネジメントにおいては、最悪の事態を前提にしたとき、こんな事は起きないではなく、起きるかも知れないという視点が必要となってくるでしょう。

都合の悪いデータや情報を無視し、都合のよいデータや情報だけ取り入れてはなりません。

5月24日 東京電力福島第一原子力発電所の事故調査委員会委員長に「失敗学」で知られる畑村洋太郎が着任されました。

氏はJR東海福知山線の脱線事故、六本木ヒルズの回転ドア挟まれ事故の調査の指揮もとられています。失敗学も本場の原因がどこにあるかを究明し、また過去の災害から学ぶという点では「なぜなぜ」やリスクアセスメントと意を同じとすると

かと思えます。この点からも、氏の委員長就任、併せて第一原発の吉田所長はじめ最前線で事故処理にあたられているみなさんの頑張りを目にするのと、まだ日本は何とかなるといふ気がします。

原発の是非はともかく、安心して住み続けられる日本と地球を子孫に残すためにも、特定の結果を前提に事を進めることなく、しっかりと本当の原因はどこにあるのかを究明してもらいものです。

また、危険の芽を摘み、労働災害をゼロに近づけるためにも過去から学び、目の前の現象事象に惑わされることなく、本当の原因を見つめる目、感性を磨いていきたいと思えます。

最後に3冊の書籍を紹介いたします。一度読まれては如何でしょうか。

【講談社】

畑村洋太郎著 失敗学のすすめ

【講談社】

畑村洋太郎著 失敗学実践講義

【岩波新書】

河田恵昭著 津波災害と減災

社会を築く 2010年12月17日第1刷

コンサルタント業務

を振り返って

労働安全コンサルタント

豊島 豊秀

労働安全コンサルタントを登録し、事務所を開設して20年になりました。その間、労働災害防止特別安全診断38件（うち4件が顧問契約獲得）、団体安全衛生活動促進事業（後の「たんぼ計画」）7集団、新潟職業能力開発短期大学の「安全衛生工学」2単位の講師8年間および基準協会等の研修会講師等の業務に携わることができました。

業務の出発点は、登録初年度平成3年の労働災害防止特別安全診断3件でした。労働災害防止特別安全診断は、平成元年労働省から本会に委託され実施され、顧問契約の獲得その他多くのメリットを会員に与えたものです。新潟支部では労働安全コンサルタント登録者数も少なく、毎年1人2、3件が割り当てられました。しかし国からの委託診断であったため、診断報告書の診断項目に要領よく記載すべ

ばよしとする風潮などがあり、改善が求められもしました。

そこで本会では、平成10年10月からの検討により、平成13年に「労働安全衛生診断報告書作成の手引き」、「イエローカード制度の試行と事例」を刊行し、登録時研修でも診断報告書の作成について指導がなされるようになりました。

最近では国からの委託業務も「企画入札方式」が取り入れられ、事業内容、受注金額にも競争原理が働いて改善がなされているようです。しかし、厚生労働省内の事業仕分けで同種事業を長年受託している者に引き続き委託することは控えるようにとの指導があり、入札見合わせになった事は誠に残念でなりません。平成24年度以降の取り組みの方向性を早急に立案して貰いたいものです。

以下、会の運営等について所感を述べたいと思います。

専門サービス業であるコンサルタントは、個々人の日常生活（営業活動、情報収集、専門的知識・技能の研鑽等）の充実は欠かせません。しかし、幅広

い産業分野の問題について対応していくためには、不得意な分野について他会員の専門的な情報等の活用が必要になります。グループ又は支部としての受け皿作りが必要と考えます。以下の事項を推進しては如何でしょうか。

(1)組織の充実活性化を図るため、会員労働安全衛生コンサルタントを増やし、支部会員37名を50名以上にします。これは本会における発言力の強化にもなるものです。

(2)本部役員（理事、専門部会委員）に支部会員を送り込む。本会情報の早期収集と支部活動への反映が可能になります。

(3)会員台帳等の閲覧を可能にする（但し会員に限る）。または、本会「専門事項記載書」掲載を推奨する。

(4)指導助言の視点は現場に多いものです。座学研修会のほか現場研修会を増加していく。

(5)支部特別会計の有効活用の一つとして、例えば「労働安全衛生関係法令解釈例規集」など高額な図書類を購入し、会員の利便性向上を図る。

平成22年度（平成21年度分）

コンサルタント活動実態調査で報告した私個人のデータは以下の通りです。

- 1. 総収入 5百〜1千万円
- 2. 指導した総事業場数 50
- 3. 業務従事日数 百〜2百日
- 4. 顧問事業場数 6

また、生涯研修登録は今年4月25日更新認定証（第29―2号）を頂きました。毎年80CPD時間程度の実績になっています。

災害ゼロから

危険ゼロへ

労働安全コンサルタント

但田 汎

全国安全週間の歴史スローガンなるものをインターネットで調べてみましたが、労働災害防止活動の推進文言として時代の流れや災害防止対策活動の推進状況が読み取れて興味深い所があります。

昭和3年の第一回から昭和19年の終戦までのスローガンは「国の護りぞ 身をまもれ」とか「決戦一路 安全生産」な

ど「富国強兵と報国」を主題にしたものでした。戦後昭和20年から昭和35年までの16回は安全スローガンが空白の安全週間が続きました。昭和36年から再スタートしたスローガンは「設備・環境を改善整備して無災害の職場を作ろう」等の職場環境の改善を入れた文言も出てきました。昭和46年の第44回のスローガンは「みんなで見直そう 設備と作業の安全！」と全員参加の「みんな」という言葉が入ったスローガンが6、7回続き、昭和47年の労働安全衛生法等の施行と共に労働災害が顕著に減少していった時代でもありました。

昭和56年からは「災害ゼロはみんなの願い 徹底させよう職場に安全を」を始めとして平成9年まで「災害ゼロ」を引用したものが繰り返して登場し、ご承知のように統計上の労働災害は確実に減少してきました。しかし死傷者の数は減っていませんが、度数率と強度率は平成年代に入ると鈍化もしくは横這い状態にあると数値が示しています。

平成7年の「つみ取ろう危険

危険の芽 トップの決意みんなの努力」平成12年の「災害ゼロから危険ゼロへ みんなで築こう新しい安全文化」平成18年の「全員参加でリスクの低減 確立しよう安全文化」昨年の「みんなが進めようリスクアセスメント 目指そう職場の安全安心」等々、最近10年くらいの間、スローガンの中に散りばめられた労働安全衛生マネジメントシステムとリスクアセスメント、トップダウンの率先実行など、以前と比べれば格段に災害防止がやり易くなり、また、様々な災害防止対策は効果が現れるはずですが、災害に遭遇する確率は平成10年以降全産業の度数率を見る限り値は変わらない状況です。

2年前のスローガンで「定着させよう『安全文化』 つみ取ろう職場の危険」がありますが、私は「災害など起こらないのが当たり前で、災害が発生してから再発防止に追われるのではなく、職場のあらゆる危険に『目配りが行き届いていて』災害を予知し対策を実施している職場でありたい」と読み替えておきます。

調剤薬局に勤務して

労働衛生コンサルタント

相馬 英昭

現在、私は上越市内の調剤薬局に勤務しています。

薬剤師の業務や、働いてみて感じたことを今回は話してみたいと思います。

隣接する個人開業医が主な処方箋元ですが、市内の総合病院からも処方箋が持ち込まれ、日に100枚前後の調剤業務を行っています。持ち込まれる処方の内容は多岐にわたったり、小児の風邪、発熱や喘息、血圧、脂質異常症や糖尿病等の生活習慣病中には疼痛緩和ケアを目的としたものも含まれます。季節によっても流行があり、一昨年の冬場前後から新型インフルエンザ。今年の夏場でいえば小児の手足口病やヘルパンギーナのようないわゆる夏風邪が流行っています。

高齢の患者さんになると、1日に服用する薬剤の数はかなり多くなり間違えずに服用出来るように朝・昼・夕と薬をまとめて作ってあげる方もいらっしゃる

います。「薬を飲むだけでお腹がいっぱいになるわ」とぼやいたりする患者さんも多く、そのような時は同効薬をまとめてあげられないものか?など疑問に思うことも正直あります。また、そのような患者さんに関しては、便秘、不眠の悩みが多く見受けられます。

ここ何年かでは、メンタルの不調を訴える30代、40代の方も増えてきているようです。仕事のストレスであったり、残業時間の多さであったり、職場労働衛生の環境づくりが現状ではまだまだ進んでいないように感じられます。より一層のメンタルヘルスクアの推進が必要だと思います。

患者さんと接していて思うことは、患者さんは話を聞いてもらえるだけでも安心できることもあるのだな。ということ。最初のうちは症状や訴えを聞いているだけだったのが顔見知りになるにつれ、その他に今悩んでいること、困っていることを話してくれるようになります。ひとしきり話を聞くと、すっきりとした顔で、話を聞いてくれてありがとうと言っていた

いたこともあり。そんな時には少しは患者さんのお役に立てたのかな?と思ったりします。もちろん薬剤師なので間違えなく調剤業務を行うことが一番大切なことですが、それ以外でなにか役立てるようなことが出来れば嬉しいことです。

薬剤師として働いてみて、コンサルタント業務にも通じることで、まず相手の話をしっかりと聞いてあげられることはとても大切なことだと感じました。この人は訴えの多い人だから、またそんな話をしているよ。と変な先入観を持って話を聞くと、その中に隠れている本当に大切なこと、重要なことを聞き逃し、分かってあげられないこともあると思います。相手の話を聞き、相手のことを理解する。それは基本的なことですが、とても難しいことでもあります。

調剤業務を通じ微力ながら地域医療に貢献出来るように努めていきたいと思っています。現在はコンサルタント業務から離れてしまっていますが、今後コンサルタント業務を再開する際には薬剤師として得た知識やコミュニケーション能力、聞

く力を生かし、少しでも事業所の労働衛生水準の向上に貢献ができるように努力していきたいと思えます。

環境マネジメントシステム体系(EMS、ISO14000S)とは

—その有効性を確実なものとする為に—

労働衛生コンサルタント

五十嵐 俊彦

ISO14000シリーズは発行以来15年を過ぎ、第三者認証ISO14001:2004など40規格となった。(図表参照)次期新規事業導入を模索していた産業界においては、京都会議後の環境配慮事業は魅力的であり、認証事業所数が増加した。

しかし、その後、景気低迷下において、コピー用紙削減・消灯による期待以下のコスト削減では認証維持の為に高いコストが負担となり、品質マネジメントシステム(QMS)同様に認証辞退が増加した。営利目的の事業所において、EMS認証にはブランドと過度なコスト削減が期

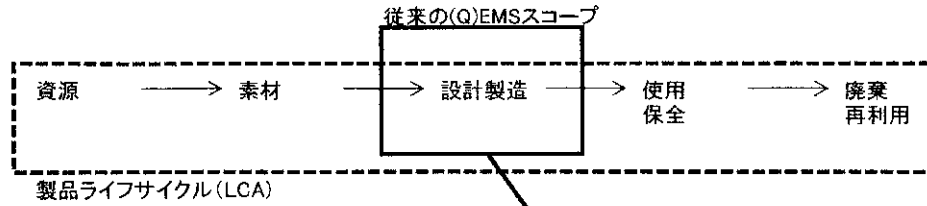
待された。が、コスト削減はスケールメリットに依存しており、ランナーの大企業に優位であることにより、結果的には中小企業には期待された程のコスト削減とならなかったことがEMS認証からの撤退の主因である。

一方、EMS導入大企業においても、EMS温室効果ガス対策として原子力発電所がもてはやされて10年も経たない内に、東日本震災直後のEMS認証東京電力の原発事故による地球規模の放射性物質汚染はEMS予防処置の難しさを再認識させた。以上のように、ISO14001単独での環境対応には限度があると思われる。

ISO14001は最も基本的な環境対応管理手法である。その有効性を確実なものとし且つ効率的なものにする補助的手法が必要であり、従来のISO14001に加えて2方向からのアプローチによるコスト削減に留意した環境調和型品質機能展開が有効であると思う：
(1) 水平展開としてのサプライチェーン(マテリアル・フロー)からのアプローチ

従来のEMSが狭義のサイトを主眼としている。(図表参照) 製品ライフサイクル(LCA)として、自利利他的にスケールメリットを生かすこと。

(2) 垂直展開としてEMSをより深めるアプローチ



- 環境適合設計(Q)DfE
 エコデザイン
 グリーン購入
 カーボンオフセット
 カーボンフットプリント
 環境ラベル
 環境コミュニケーション(報告)
 マテリアルフローコスト会計
 成果(パフォーマンス)
 リサイクル法
 省エネ法、ISO50001

図表. ISO14000シリーズ、環境マネジメントシステム(EMS)体系
 注意 規格番号は省略。一部環境関連遵守法令を挿入。

図表における実線枠内の環境適合設計(成果(パフォーマンス) 11項目の中から選択適用。以上により、事業者を満足させるパフォーマンスが確実に得られると思う。

未曾有の大災害に

思うこと

阿部 幸雄

労働安全コンサルタント

かつてこれ程の災害があっただろうか。死者2万数千人。さらに原子力発電所の原子炉溶融と大爆発。放射能は世界中に撒き散らされた。マグニチュード9という大地震によって引き起こされた大津波は三陸沿岸に襲いかかり、あらゆる生命と財産を押し流してしまった。

そのとき私は安全協議会に出席すべく車を走らせ、不覚にも全く気が付かなかった。直後の余震で建物がゆらゆらと大きく揺れたとき始めて、阪神淡路大震災が頭をよぎったが津波には考えが及ばなかった。

明治三陸津波、チリ地震津波、昭和の三陸津波と度重なって大津波を経験しながらも尚、避難しなかった人がいたのはなぜなのか。いち早く避難して難を逃れた人、いったん戻り被災した人、大丈夫と逃げ遅れた人、避難先を決断できなかった人などなど。防潮堤が安心を助長した面もあるのだろう。それにして

も繰り返し報道された大川小学校の悲劇は悲しみに余りある。リーダーの果敢な決断が、いやリーダー不在が招いた悲劇ではなかったか。

人は未知の決断を迫られたときどうするか、その人の想像力が試される。日頃の経験と知識がそれを生む。一見関係のない知識と経験のなかにヒントがある。そして何よりも救命が優先されるという心の準備が決断を助けるのだ。とは言ってもそんな決断を誰もが下せるというもではなく、訓練が必要だろう。あらゆる場面を想定して心と行動に訓練しておく事がいかに大切かをこの震災は改めて教えてくれた

ところで原発事故では想定外の言葉がばっこした。まるで責任は津波にあるかのよう。自然災害は必ずある。例え想定外でも責任は免れず受け入れなければならぬ。水害、地震、地滑り、台風しかり、過去幾度となく繰り返されてみんな分かっていたはず、つまり想定内なのだ。真に想定外だったのは放射線災害であったのではないか。絶対に事故は起きないとの安全神話を作り上げたためにこれ

ほどの悲惨な災害を想定しなかった。唯一の原爆体験国でありながら放射線への対応、避難訓練も全くないまま今回の事故に至った。想像力の欠如と言わざるを得ない。いや、意識的に思考を停止したのかも知れない。人災と言われる所以でもある。放射線災害対策に右往左往し遅れを招いたのはそのためであつたらう。わが新潟県では遅ればせながら勉強会を開いているがそのお粗末さに呆れる。

この度の台風16号による大雨は300年に一回とも言われる大変な災害だが誰も想定外とは言わない。結果の想定は心の中に出来ている。しかし、100万kw原発一年分で14京ベクレルと言うとつもない放射能が製造され撒き散らされる場面を誰も想定しない不思議さ。先の大川小学校では避難訓練は行っていたが避難先は決まっていなかったという。形だけの訓練ではなかったか。ここにも想像力の欠如がある。

小さいながらも作業安全という分野に携わりながらいかに想像力を働かせ、危険を予知し対策を施す基本をこの災害を教訓として生かさねばと思っている。

新入会員紹介

氏名

佐々木 明
ささき あき

(昭和27年1月5日生)

支部入会

平成23年5月

登録種別

労働衛生コンサルタント

〒12790

事務所名

佐々木労働衛生コンサルタント

所在地

〒9500115 新潟市江南区

丸山ノ内善之丞組21926

(電話)025127718711

E-mail:

spec@yes@waltz.ocn.ne.jp

勤務先

株式会社 日さく北信越支社

所在地

〒95000891 新潟市東区

上木戸1-8-13

(電話)0251273163002

(FAX)025127111110

E-mail:

akira-sasaki@nissaku.co.jp

他の資格

一級土木施工管理技士、一級
管工事施工管理技士、地質調査

技士(管理部門)、RSTトレーナー、衛生管理者第一種、危険物取扱責任者(乙種4類)、一級さく井技能士、第一種消防設備点検資格者、甲種防火管理者、低圧電気取扱トレーナー



コンサルタント会入会に

あたつて

労働安全コンサルタント

佐々木 明

この度は、コンサルタント会
新潟支部に入会させていただき
ありがとうございます。

私は現在の会社に40年余り勤
務いたしております。会社の業
務は井戸掘削技術を基に地質調
査・治山土木・温泉開発などで、
その資材管理に30年、安全管理
に10年携わって参りました。

安全管理を担当して1年余
りは何事もなく過ぎ、蒸し暑い
7月の末に労働災害の恐ろし
さと安全管理の重要性を思い知
らされました。一報は極めて軽

微な事故のような報告でしたが
二報・三報と続報が入る度に事
の重大性がハッキリし、重苦し
い雰囲気の中を上司と共に現場
に向かったことを今でも鮮明に
覚えています。

発生工事は県発注の工事であ
り、行政処分だけでなく道義的
責任から既に受注した物件すべ
てを辞退し、会社業績の悪化に
つながっていることを実感させ
られました。

この時、安全管理は会社の命
運を背負っている重要な業務で
あることに気付き、「無事故・無
災害の達成」がとおり一遍のこ
とばではなく、必ず実現させな
ければならないと心から思うよ
うになりました。

被災者は19歳の男性でした
が、幸いなことに後遺症もなく
半年後に完治いたしました。そ
の後大学に進学したと聞いてお
ります。

ISO9001については会
社内で指導する立場ですので多
少知識はあるつもりですが、リ
スクアセスメントの実際や労働
安全衛生マネジメントシステム
についてはまだよく分からない
部分があります。機会を捕えて
勉強していきたいと思っております。

コンサルタント会の諸先生方
のご指導、ご鞭撻をよろしくお
願い申しあげます。

新入会員紹介

氏名

藤巻 一光
ふじまき いっこう

(昭和22年8月14日生)

支部入会

平成23年7月

登録種別

労働安全コンサルタント

機1681

勤務先

太平洋特殊鑄造株式会社

直江津製造所

(電話)025154317100

(FAX)025154315673

E-mail:

i.fujimaki@psc-cast.co.jp

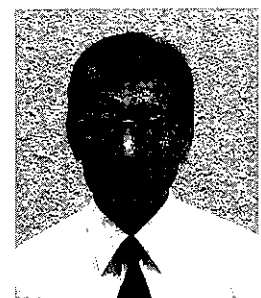
所在地

〒9421001

上越市港町212511

他の資格

第一種公害防止管理者(大気)、
技術士二次試験合格(金属)



コンサルタント会入会

にあつて

労働安全コンサルタント

藤巻 一光

本年3月に労働安全コンサル
タントの資格を取得し、七月か
ら新潟支部に入会させていただ
きました藤巻です。

現在、上越市にある鑄鋼メー
カーに勤務しております。十数
年、安全管理者として安全衛生
活動計画の策定、労働災害の原
因対策検討、従業員の安全教育、
リスクアセスメントの指導など
労働災害の防止に努めてきまし
た。特に教育に注力し、過去35
年間に勤務先で発生した全ての
災害事例をKYシートに編集し
て、危険予知訓練を繰返し実施
させました。しかし多品種少量
で手作業主体という生産形態も
あり、度数率は鉄鋼業の平均に

も達せず苦慮しておりました。マンネリに陥っていることも明白でした。そして会社の安全体質を改善するためには、もっと私自身が変らなければと思うに至りました。

そんな折にコンサルタント試験の存在を知り、今まで以上に安全に関する知識と実践の手法を身に付けるために、にわか勉強でしたが試験に挑戦しました。結果的に労働安全に関わる情報に貪欲になり、また最新の情報も入手し易い環境が整いました。現在はOSHS導入に取組んでいます。今までも鋳鋼品製造の技術者としての業務だけではなく、ISO9000やASME SEC III NCA3800(原子力用金属材料製造の品質システム)等、品質システム構築、監査の推進者としても関わってきました。幸い、その経験はOSHSMSにおいても役立つています。

嘗て品質システム構築の際、従業員に対して土壌(組織風土)を管理しなければ良い作物(製品品質)は育たないと説いたものですが、安全も全く同様であることを今、痛感しています。過去の安全教育は砂地に肥料

を流していただけと反省し、土質の改良を目指しています。好結果が得られましたら、他社のお役にも立ちたいと願っています。

コンサルタントとしては緒に就いたばかりの未熟者ですが、今後は諸先輩の皆様方のご指導を賜りながら、些少でも当会の発展に寄与できるよう、研鑽に努める所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新潟支部の歴史と

事務局交代に思う

新潟支部 事務局長

鈴木弥寿春

平成23年7月1日から事務局長を仰せつかりましたが、雑務に追われ事務局として落ち着かない日々でございます。

そんな折、本会から新潟支部の歴史関連の寄稿依頼を受け、過去を振り返ることが出来ましたのでここに掲載し合わせて現在思うことを述べてさせていただきます。

新潟支部の歴史

昭和51年任意団体「新潟県労働安全衛生コンサルタント会」

を設立し、監督署に会員の氏名掲示板を設置し、安特・衛特指導会に参画し、労働安全衛生の向上に貢献してきました。

平成5年に社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会新潟支部が設立され、以下のような活動をしてきました。

- ① 支部ニュース、推進月間、HPによる広報。
 - ② 本部からの安全衛生診断事業の受託。
 - ③ 新潟県労働基準協会連合会等への講師推薦。
 - ④ 業務研修会による研鑽。
 - ⑤ 北陸地方建設局からの安全対策事業の受託(平成8年、10年)
 - ⑥ 国立大学等からの安全衛生診断指導の受託(平成15年)
 - ⑦ 支部独自の安全衛生相談センターによる無料相談等。
- 私の思い
右記の財産を受けまして、事務局の目標として
- ① 顧客要望に沿う等による受注の増加。
 - ② メール等による情報交換の促進。
 - ③ 支部活動を評価しフィードバックする。
- などを考えています。これによ

り、会員が活動しやすくなるようになってほしいと思います。

- ① RAとMSの導入ノウハウ。
 - ② 安全と健康の統計目標。
 - ③ 様々な業種・労務形態と労災の調査分析。
- などを習得することが重要な要素であると思います。

最近の傾向として、現場の安全衛生管理は事務的で足踏み状態のように感じられます。

生活環境が変わっていくとともに安全衛生管理レベルも向上してゆかなければ労災の増加を招きかねません。そこで、現場管理の一助としてコンサルタントも現場に近づいて教育するニーズが増えていくものと希望を持っております。

今までのようなスタッフ向けよりも、現場管理者を育成するような業務が顧客満足度を高めるのではないかと考えています。今後ともご協力のほどお願いいたします。

監督署氏名掲示板への

掲示の募集

表記氏名掲示スペースが空いております。掲示をご希望の方は随時受付を致します。左記にお申し込みください。

空いている監督署

新潟1 上越1 新発田2

小出1 十日町1 佐渡1

申し込み 広報担当阿部まで

電話・FAX

025-241-1789

E-mail:marino@y.email.ne.jp

放射線の単位について

ベクレル(放射能の単位)

放射線を出す能力を表す単位で100万kwの原発を1年運転すると14京ベクレル。

シーベルト(放射線の量)

人が放射線を受けた時の影響の程度を表す単位。1時間に受ける線量はシーベルト/時。

1シーベルトは1000ミリシーベルト、1ミリシーベルトは100マイクログラムシーベルト。

ヨウ素131:放射性同位元素。半減期8日でベータ崩壊をして安定キセノンに変わる。ベータ線を放射する。

セシウム137:放射性同位元素。ベータ崩壊してバリウムに変わる。半減期30年。ベータ線を放射する。

放射性物質:放射能を持つ物質。放射線: α 線、 β 線、 γ 線の順に透過力が強い。 α 線は紙一枚、 β 線はアルミ数ミリで防護。 γ 線は鉛10センチ必要。

支那トリンクス

事務局長 鈴木弥寿春

◆新潟支部第16回定時総会

平成23年6月4日、新潟県土地改良会館にて開催され、平成23年度の事業計画の採択及び事務局長交代が行われました。

【平成23年度事業計画】

一、行政機関への協力及びコミュニケーションの強化

1. 平成23年度労働安全衛生行政「第11次労働災害防止計画（労働者の安全と健康を守り、労働災害を減らすための5年計画の策定）」に積極的に協力する。

新潟労働局「リスクアセスメント普及促進3カ年計画」等事業には安全衛生相談センター業務の一環として対応する。

2. 局健康安全課及び署安全衛生課（第2課）とのコミュニケーションを強化する。

二、生涯研修制度の推進

三、業務部会加入の促進を図る。

四、業務活動の推進

1. 平成23年度全国安全週間・衛生週間に協力し、労働安全・衛生コンサルタントの活用を促進する。

2. 新潟支部独自施策として、安全衛生相談センターを開設し、労働安全衛生に関する無料相談を実施する。

支部ホームページ等で本活動の広報に努め、労働安全・衛生コンサルタントの活用を促進する。

3. 各種災害防止団体との連携を強化する。

4. 団体安全衛生活動援助計画（たんぼぼ計画）に協力し、労働安全・衛生コンサルタントの活用促進を図る。

5. 中小規模事業場を対象とした危険性又は有害性等の調査普及事業を推進する。

6. 新潟産業保健推進センター及び地域産業保健センター事業活動に協力し、労働衛生コンサルタント業務を開拓する。

7. 労働安全衛生マネージメントシステムの普及に関し、コンサルタント活動を通じて推進する。

8. 労働安全・衛生コンサルタント表示を実施する。

五、第17回（平成23年度）労働安全衛生コンサルタント制度推進月間行事の組織的展開

六、業務研修会の開催と出席会員数の拡大

1. 第1回研修会 平成23年

6月4日実施

① 第一部 平成23年度の労働安全衛生施策について

講師：健康安全課長 渋谷 昇

② 第二部 化学物質の火災・爆発に係るRAの実施
講師：会員 田村三樹夫

2. 第2回研修会 平成23年12月2日予定

七、広報活動の展開
支部ニュース 18号発行 10月1日
ホームページの充実
八、理事・業務部会の開催
1. 平成23年度第1回（4月16日）
2. 平成23年度第2回（12月2日）予定
3. 平成24年度第1回（4月日未定）

◆【事務局長交代】

平成23年7月1日から、関本久先生に代わり会計鈴木弥寿春が事務局長を仰せつかりました。関本先生お疲れ様でした。会計と事務局の兼任ですが初心を忘れず私なりに一所懸命勤めたいと思います。皆様よろしくお願ひ致します。

◆北関東・甲信越ブロック会議

北関東・甲信越ブロック会議

は平成22年10月23日、新潟支部が幹事となり、チサンホテル&コンファレンスセンター新潟において開催されました。労働局安全衛生課の有賀康雄 課長、本会の宮路勝 理事、茨城・山梨・群馬・栃木・長野の各支部代表及び新潟支部会員が出席されました。各々の方から現状報告と問題点の意見交換がなされ、理解と親睦を深めることが出来ました。平成23年度は、群馬で行われます。

◆会員移動

1. 本会退会
尾形尚武（安全）
柏瀬信子（衛生）
高野康雄（安全）
野沢幸男（衛生）
2. 業務部会退会
井筒威久（安全）
高島勉（安全）
山本賢（衛生）
3. 本会入会
内山秀明（安全士）
佐々木明（安全士）
藤巻一光（安全機）

◆労働災害労働基準監督署RA指導会及び災害多発指導会への講師派遣

新潟局管内各署で開催される指導会への派遣を次のように実施しました。

（弥寿春）
三条署 9月6日製造業 鈴木
新潟署 9月13日建設業 阿部
新潟署 7月20日建設業 但田
新潟署 9月22日運送 鈴木武
新潟署 11月8日製造業 豊島
長岡署 9月15日建設 鈴木直
新潟田署 7月5日安指導 豊島
9月29日建設 鈴木武
◆電気工業工業組合安全衛生教育への講師派遣
①電気工事作業指揮者安全教育（法令1時間）5箇所
②安全衛生推進者能力向上教育（法令等3時間）4箇所
いずれも9月、11月に実施予定。担当は鈴木（武）、鈴木（直）、鈴木（弥）、但田、阿部
◆事務局雑感
9月初旬に原稿を執筆しております。事務局2ヶ月が過ぎましたが、雑務に追われ、余裕がなく、事務について納得を感じられない状況です。もう少し時間が過ぎましたら、より良く連絡調整して行けるようになりたいと思っております。最後に、この支部ニュースで伝えておきたいのは、今後随時メールでタイムリーに情報交換させていただきます。よろしくお願いいたします。